13

Takara Kensetsu

宝建設

神奈川・川崎市

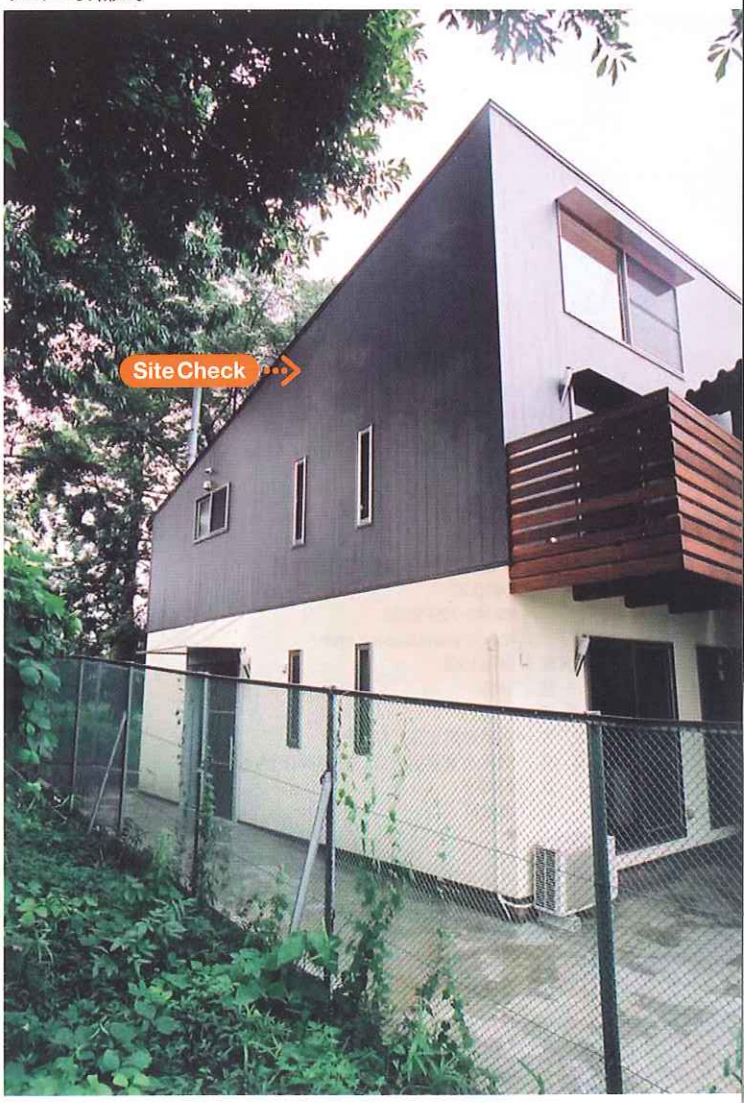
Tさんの家

神奈川・川崎市
本体工事費:2100万円
延床面積:102.06m²
家族構成: 夫36歳 妻33歳 長男5歳

変形敷地を生かしたワンルームLDKプラン。光と風と緑の景観を取り込んでゆったりと

親が住む母屋に隣接した既存家屋を建て替える形となったT邸。変形敷地のため、建物の基本プランが固まるまで設計の打ち合わせが何度も繰り返された。周囲の木々の落ち葉が堆積しないよう、シンプルな外形に。

sumaiweb.jp
http://www.sumaiweb.jp/komuten/
「sumaiweb.jp」にて、本誌に掲載した物件の全データを公開中。
取材のこぼれ話も満載。さあ、今すぐ検索!
sumaiweb 検索



最初は、夫の実家を建て替えて、二世帯住宅にする予定だったという。そんなTさん夫妻が相談を持ちかけたのは、設計事務所での勤務経験も豊富な、宝建設の社長・佐藤治正さん。じっくりと建主の話を聞き、住まいの可能性を一緒に探っていくスタイルを得意としている。今回も半年かけて検討を重ね、最終的に母屋に隣接する形で子世帯のみの住宅を新築する、という計画にたどりついた。

もともと母屋の北側には、1階が車庫、2階に2部屋の既存家屋があり、Tさん夫妻はそこで3年の間、生活を送っていた。「子供もいたし、いずれは建て替えるなりしなくては、と考えていました」と夫。当時は南側が母屋にふさがれているため、日がうまく当たらず、風の抜け

2階はワンルームのLDK。バルコニーと高窓に面したリビング、緑の眺めを楽しむダイニング、室内を見渡すことのできるキッチン、とそれぞれ異なる開放感を味わうことができる。限られた床面積の中でも、勾配天井や変形敷地に沿った外壁の角度により、変化に富んだ空間に。中央の螺旋階段を上がるとロフトが用意されている。

もよくなかった。また、敷地の隣にはゴルフ場があり、木々の落ち葉が敷地内に堆積してよく雨樋を詰まらせていたという。

同社から提案されたのは、敷地の形状にぴたりと沿った形の2階建ての住まい。屋根は、落ち葉を敷地外に流し出すような角度の勾配とした。「敷地を無駄なく使い切り、なおかつ通風と採光が確保できるように計画しました」と佐藤さんは話す。

シンプルなラインで構成された建物は、1階の外壁をホワイト系の左官壁、2階を黒のガルバリウム鋼板張りと対照的な仕上げに。シャープなイメージを木製のバルコニーがほどよく和らげている。

シックな外観とは一転して、内部は広々と明るい雰囲気に。生活の中心となるのは2階のLDKだ。南側にバルコニーと高窓を設け、屋根勾配を生かした高さのある室内に光と風をたっぷりと取り込んでいる。ロフトには夫の書斎も。「ここまで明るくてのびのびした住まいになるとは思いませんでした」と妻も喜ぶ。

ダイニングはゴルフ場の緑の景観を臨む大きなフィックス窓のそばに配置。奥のキッチンからはリビング、ダイニングを一望できる。家族がどこでくつろいでいても一体感を味わえるプランとなった。

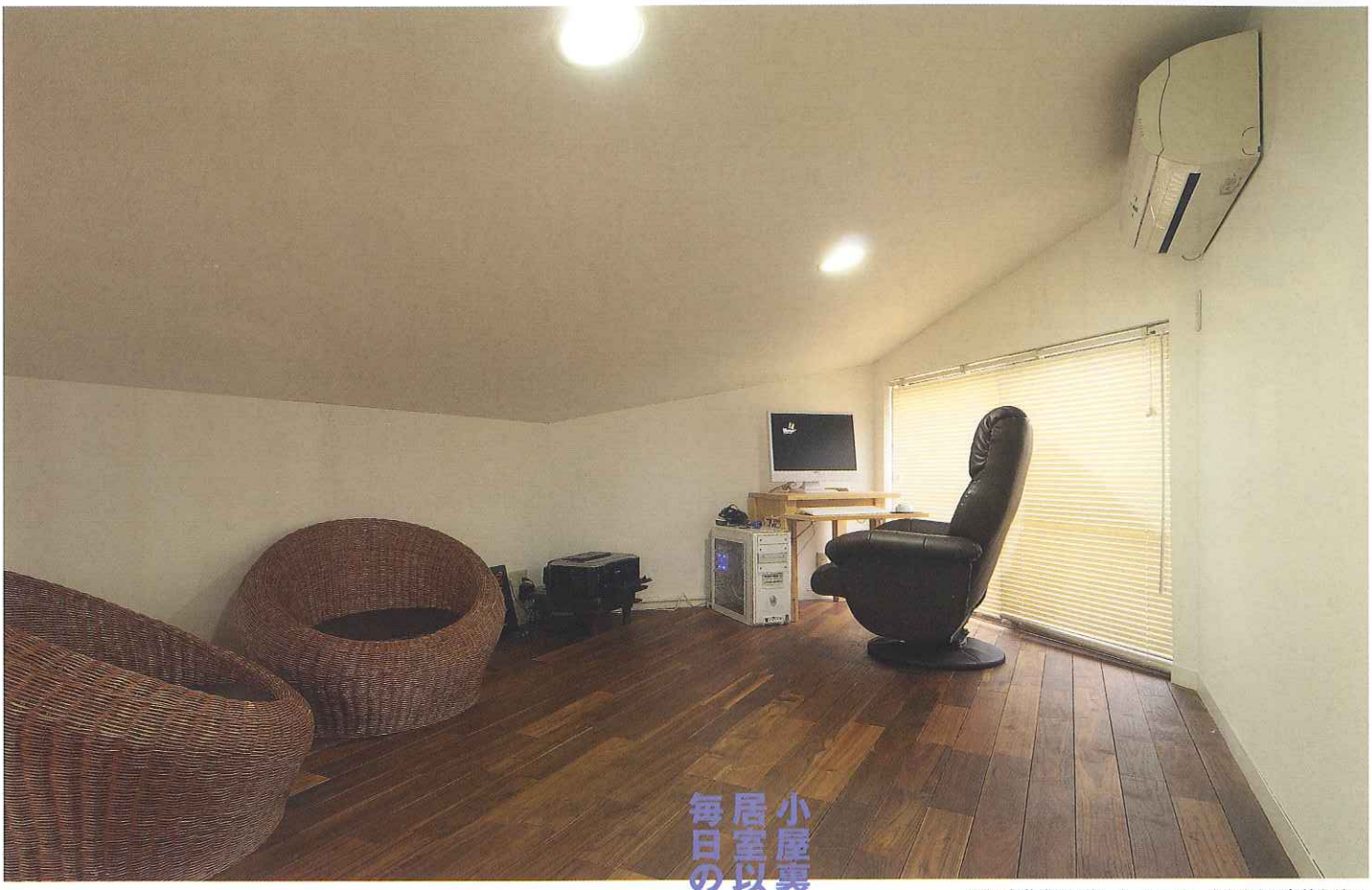
1階は玄関、洗面室、浴室のほか、約12・5畳のゆったりとした寝室。玄関ホールからは空間が各室へ延びていく。限られた敷地の中でも、連続性を感じさせることで、屋内の随所に開放感が生まれている。

ダイニングの開口部は景観を大きく取り込むため、フィックス窓に。その両側は通風を確保するための縦長の滑り出し窓が設置された。「窓の外に見えるのは桜の木なんです。家の中で花見ができるんですよ」（夫）。食卓の背後に造作されたカウンターは、配膳・あと片付けに活用されている

北の緑、南の〝抜け〟、敷地の形…。あらゆる要素を設計力でプラスに反映させる

（右）天井面ではなく屋根面で断熱する外張り断熱仕様のため、小屋裏もLDKと一体の空間として有効活用できた。高窓の前にはルーバーの通路を設けたので、掃除もしやすい（下）珪藻土の壁とクリの無垢材の床がお互いの質感を引き立て合う。温かな雰囲気が漂う空間に仕上がった

(上)清潔感を重視して、ステンレスのシステムキッチンを選択。「リビングやダイニングにいる家族に背を向ける形にはしたくありませんでした」と妻。造作のカウンターは食卓からキッチン内への視線を遮る役割も果たす。その下部はゴミ箱の置き場に
(下)勾配天井が空間を立体的に展開させ、変化のある眺めを生み出す。珪藻土の壁には、子供の作品や好みのインテリアグッズが飾られ、自然光や照明の陰影がアクセントを加えている



2階の螺旋階段の先にあるロフト。もともとは収納などのために設けられた場所だが、現在はパソコンやチェアを持ち込んで夫の居場所としても使われている。「このコンパクトな空間も落ち着きますよ。特に冬は下から暖気が上がってくるから、けっこう居心地がいいんです。夏には窓から屋上に出て花火見物を楽しむこともあります」(夫)

小屋裏、ホール、通路など居室以外の空間もフル活用して、毎日の暮らしにゆとりを与える

(右)明かり取りの曇りガラスを入れ、足元が照らされる玄関。ホールとひと続きになって、広がりのあるスペースに (中)ホールから奥へ延びる通路には、縦のスリット窓が連ねられた。安定した明るさが提供されている。右手のドアは寝室へ続く (左)リズミカルに光が差し込む通路。突き当たりに見えるのは階段下に設けられたトイレだ

●工務店からひとこと

住まいを新しくするということは、今までの暮らしを見直し、生活を一新するいい機会です。現在、家族の価値観やライフスタイルには様々な形があります。そこをきちんと見据えることができれば、予算が少なくても、敷地条件が厳しくても、より満足度の高い住まいに仕上げる設計や施工の工夫はいくらでもある、と私は考えています。

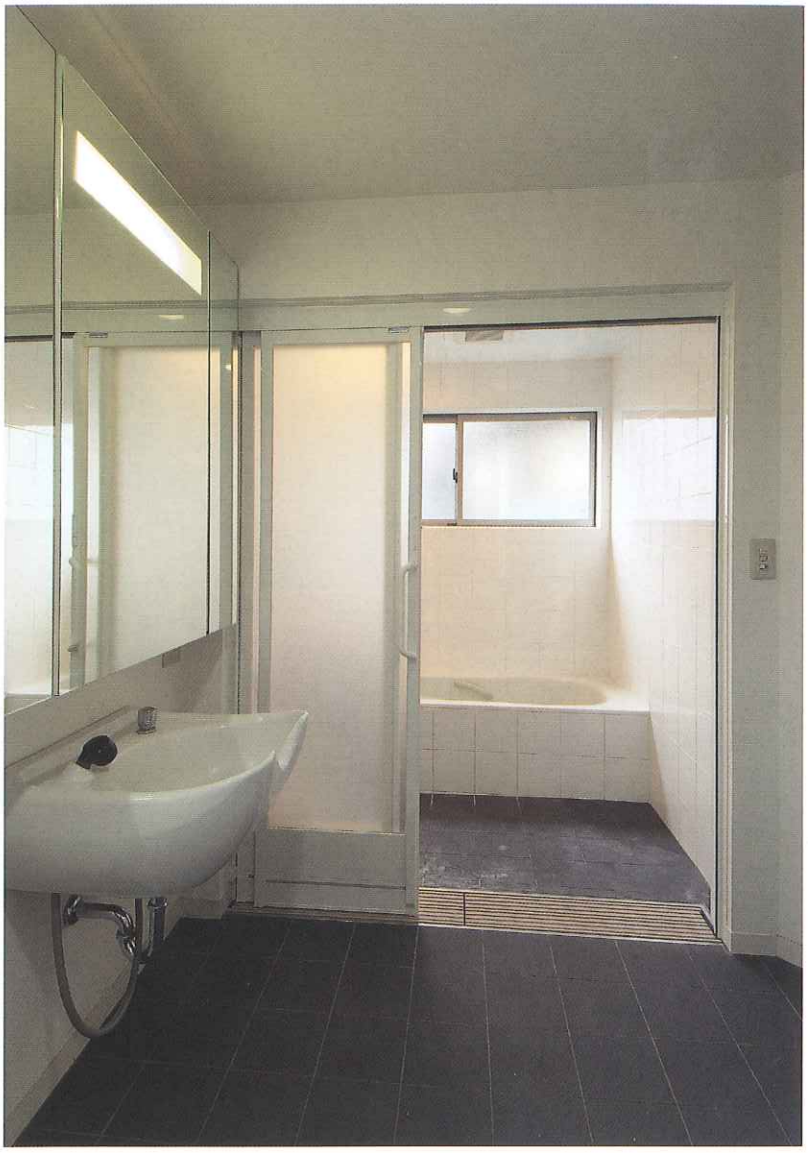
また、リフォームにおいても増築するだけではなく、居住面積を減らす、いわば〝減築〟によっても質の高い空間を得られる例が多くなりました。いずれにせよ、敷地条件と予算、要望が高いレベルでバランスが取れるような住まいづくりを目指しています。

私が設計・施工の両面で重視しているポイントがいくつかあるのですが、そのひとつが階段です。階段を計画するにあたっては、傾斜や高さのバランス、施工精度、強度、デザイン性、施工コストなど、様々な要素が複雑に関係し合っています。

室内での快適性を保持するには断熱性能も重要です。外観では軒先のデザインも気にしています。それぞれ重視する理由がありますが、最終的にお客さまに満足していただけるかどうかがいちばん大切ですね。（代表・佐藤治正）

この続きは「sumaiweb.jp」で

社　　名／宝建設
代 表 者／佐藤治正
住　　所　〒216-0033 川崎市宮前区宮崎150
☎044・877・3861
http://www.takara-kensetsu.com
年間建築棟数／新築8棟
社　員　数／8名
平均坪単価／65万円
主な工法／木造軸組工法
建築地域／首都圏（車で2時間以内）
設　　立／1970年
定　休　日／日曜日



（右）浴室と洗面室は床を同じタイルで統一してひと続きに。美容院で使われるタイプの洗面台には造作の三面鏡を合わせて、スッキリと仕上げた（下）1階の寝室は出入り口を2つ設置。将来、間仕切って子供室を設けることも可能だ

この物件の情報は、「sumaiweb.jp」に公開しています。

sumaiweb.jp
http://www.sumaiweb.jp/komuten/
sumaiweb
検索

●撮影／森田耕司（※一部、宝建設提供）　取材・文／渡辺圭彦